

石巻市北上町「平地の杜づくり」～被災した集落跡地を心地よい場所へ蘇らせる挑戦～



取組の位置



地域課題・目的

【地域課題】

- ①東日本大震災からの復興に伴う「防災集団移転促進事業」により、安全安心な住まい確保のため高台へ移転したことから、先祖代々住んでいた**集落跡地**（移転元地）が発生した。
- ②移転元地は、住まいが無くなったことにより、原野に戻ることも無く、**荒れ果てた手つかずの土地**となってしまっている。

【目的】

- ①荒廃した集落跡地を「美しく心地よい」愛着を感じる場へと取り戻していく。
- ②時間が止まったかのような場所を人々の集いや関りを誘う**横のつながり**として育み、過去と未来という**縦のつながり**“生命のつながり”を守る場所として再生していく。
- ③平地の杜づくりを通して、人々が関わり続ける環境づくりを行う事により、隣接した**山林の保護**や、防潮堤により海と遮られた**平地の環境改善**に繋げ、今後の防災、減災対策に繋げていく。

取組内容

①集落跡地という、木の生育・成長に適さない場所で、杜づくりを実践。

- 1) 藪払い…鬱蒼と生い茂るヤブを高狩り
- 2) 水と空気の流れの確保
…乾燥した大地に貯水力や浄化力を浸透
- 3) 小さな杜づくり…木が育っていく環境の整備



②未来を一緒に作る仲間づくり。

- 1) ワークショップの開催
- 2) 体験学習ツアー等の実施
- 3) サポート協賛会員の募集

③プロジェクトの継続性担保に向けた地域の緑を育む・活用する事業。

- 1) 広葉樹育苗や有機資材の製造事業
- 2) 廃棄資源の再活用（河川域刈り草等）
- 3) エコテリア等の施工



取組効果

●杜づくりを通じた地域交流

→日々の暮らしの中で同じ場所、同じものを見て、感じて、笑い合える**関係性**を、地域住民を始めとする関係者の間で**構築**することが出来た。

●持続可能な資源の活用

→本来、廃棄される運命にあった枝そでや落ち葉、北上川下流域から出る刈り草などを**有機物**として再利用したり、家庭で育てることが出来なくなった**園芸種**の苗木や花などをアップサイクルし育て、自然に預け直す等、**SDGsの達成**に貢献している。



⑤荒れ果てた集落跡地



④移転元地が発生



③集落は高台に移転



②集落は津波により流される



①東日本大震災



工夫した点

① 3つの『できる』をコンセプトに、ナレッジの蓄積と再現性を構築

- ・だれでもできる
- ・あるものでできる
- ・自立できる

⇒今後の日本社会に必要な価値を生み出す。

② 5つの視点を大切にプロジェクトを推進

- ・地域性…この地域らしさ
- ・還元性…何かの、誰かのためになること
- ・開放性…誰もが参加でき、享受できる
- ・伝承性…伝えていくこと
- ・持続性…長続きさせる、出来ること

⇒この街の未来を人と緑の力で描いていく。

③ 持続可能な「杜づくり」

震災の影響により集落単位での高齢化、独居化は一層進展しており、移転元地も広大かつ、インフラ整備には多額の投資が必要なことから、無理のない範囲で自主的に開かれる体制づくりを行っている。

今後期待される効果

① エリア価値の向上

・地域の植生を活かし集落跡地と周辺の自然環境の調和により、今後の環境整備の向上に寄与する。

・集落跡地を逆転的開発と言える「杜づくり」により、人の手を借りなくても天然更新されていく持続性ある里山として再生を目指す。

・さらに、景観の向上による人が近寄りづらい環境の解消は、防犯、治安の向上にも繋がる。

② 防災、減災への対応

・「杜づくり」を実施しているエリアは、後背に山を抱えているものの、手入れが充分になされていない。「杜づくり」による、里山としての再生は、防潮堤に遮られた海岸低平地の貯水力等の向上による、水害対策や治山的な役割が期待される。

・また、大型哺乳類の出現や侵入といった野生動物との軋轢を解消させる。

③ 横展開の可能性

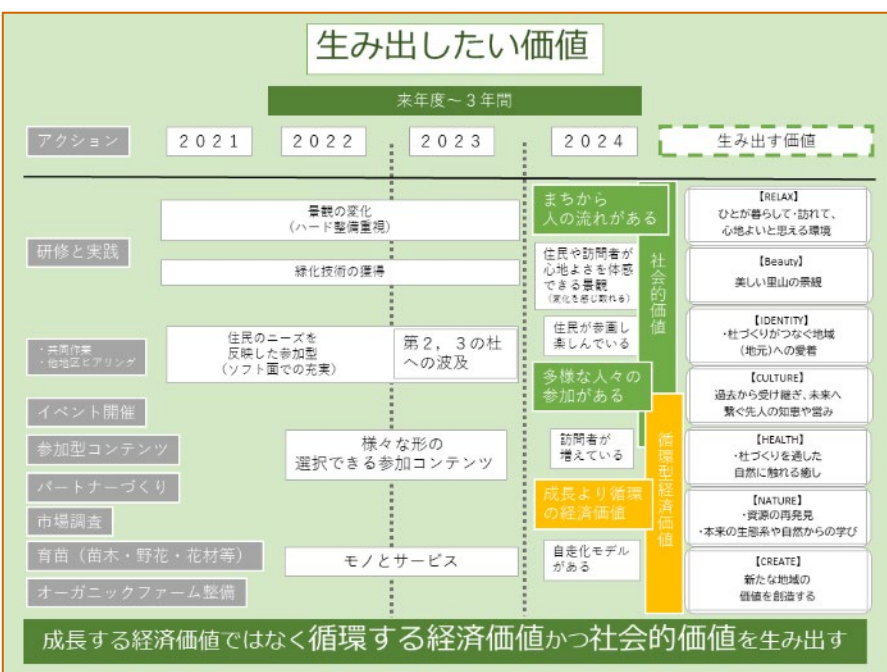
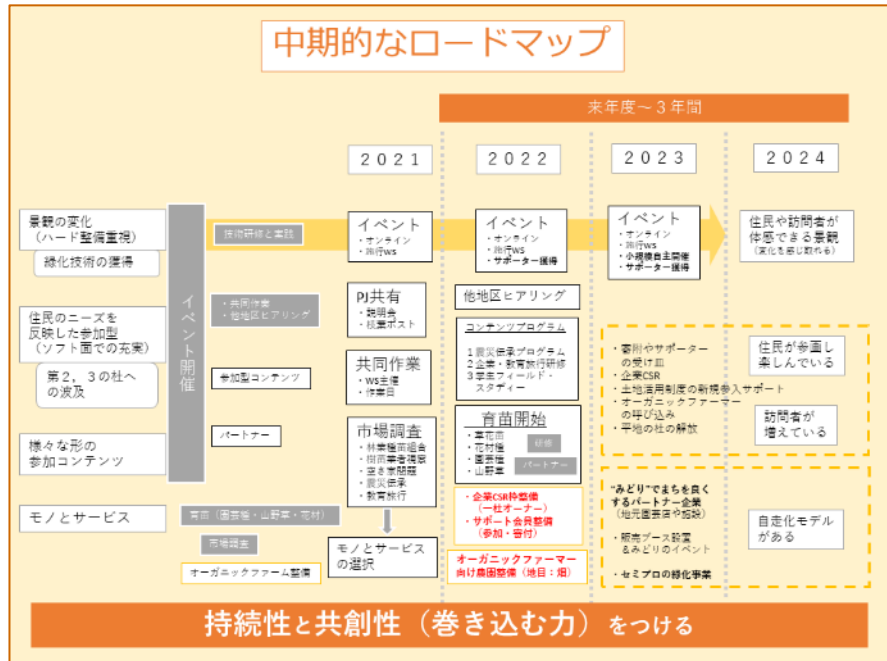
石巻市では「防災集団移転促進事業」によって約165haの移転元地を買い上げており、そのうち約100ha程度について今後の活用見込みが立っておらず、今回プロジェクトを進めている土地の様に荒廃する可能性が高い。今後、「杜づくり」の平準化や、事業確実性の担保により、同じ悩みを抱える他地区への展開が見込まれる。

今後の展望

①木々の枝葉越しに日差しが点々と差し込み、風が穏やかに流れ、適度な湿度が保たれた健全な環境を海岸沿いの低平地に取り戻すため、施工エリアや他集落跡地へも取り組みを拡大。

②その環境を、私たち人間と全ての生き物たちが訪れて享受できる、そんな心地よい場所を、未来へ、子供たちへつないでいく。

③東日本大震災からの復興から学んだ“「復興のおわり」のはじまり”を「平地の杜づくり」を通して日本全国に発信する。



美しく心地よい場の回復